「気候変動の影響を踏まえた琉球諸島沿岸海岸保全基本計画検討委員会」 第４回（総括）

＜気候変動の影響を踏まえた整備方針に関する検討結果＞

（1）気候変動を踏まえた海岸保全施設の整備方針及び所要天端高の試算結果について

気候変動の影響を踏まえた海岸保全施設の整備方針について、代表海岸における所要天端高の試算結果、整備タイプの分類、段階的適応策及び砂浜（リーフ海岸）のモニタリング計画を確認した。所要天端高の試算については、代表 10 海岸を対象に、将来の平均海面水位上昇及び高潮・波浪の変化を考慮した結果、気候変動による上昇量は 0.3～0.8m、現行施設からの上昇量は 0.2～2.7m 程度となることを確認した。あわせて、本試算は簡易的な条件に基づくものであり、個別海岸の護岸形状、沖合施設、施設規模等については、今後の詳細検討において確認する必要があることを確認した。

（２）気候変動を踏まえた海岸保全施設の整備タイプ及びモニタリング計画について

整備方針については、気候変動を踏まえた整備タイプとして、海岸堤防の機能強化、面的防護、セットバック、多重防護等の考え方を整理し、代表海岸への適用例を確認した。その上で、各整備タイプの位置付けや、試算条件との関係について、資料上で分かりやすく整理する必要があるとの意見があった。また、砂浜（リーフ海岸）のモニタリング計画については、汀線測量、UAV 写真測量、航空レーザー測量、深浅測量、ALB 測量等に加え、沖縄県の透明度の高い海域特性を踏まえ、人工衛星による海中地形把握の活用可能性についても検討することとした。

＜気候変動の影響を踏まえた整備方針の今後の検討方針＞

今後は、本検討委員会での意見を踏まえ、所要天端高の試算条件、沖合施設や人工リーフ等の考慮有無、サーフビートの扱い、整備タイプと試算結果の関係について、資料の記載を補足・修正する。また、段階的適応策については、気候変動の不確実性、平均海面水位上昇の評価値、高潮・波浪の増大分の早期発現の可能性、余裕高の考え方等を踏まえ、各パターンの位置付けや適用上の留意点を整理する。

特に、余裕高に気候変動影響を含めるように誤解されるおそれのある表現については、掲載の要否を含めて再整理する。あわせて、沖縄県特有の海岸条件、既設護岸のライフサイクル、背後地の状況、施設更新時期等を踏まえ、海岸ごとの防護水準を満たさなくなる時期や整備優先度について、今後の海岸管理者間協議及び海岸保全基本計画改定委員会において検討を進めることとする。